

巻頭言

2007 年 7 月、10 年余勤務した東邦大学を辞職し、8 月より神戸大学に赴任しました。これに伴って東邦大学の院生 4 人が神戸大に移り、共に新しい研究室を立ち上げました。新研究室では、実験器具を逐一買い揃え、研究室を整備していく必要がありました。費用を勘案しつつ、数ヶ月の地道な作業となりました。その甲斐もあって、このたび修士二年生は無事、修論発表へとこぎつけました。また、移転早々ですが非常に良い研究の芽が出つつあります。移ってきた院生にとって、苦労もある一方で、研究室の立ち上げ、異文化体験、違う土地で暮らす経験は、本人の財産となり、思い出となるはずです。在學生は、科学の発展と継承の役割を担っていますから、自らの今後の人生のために、研究活動に励み、良い経験としてください。今後、新しい仲間が加わり、良い研究・教育機能を果たす研究室が運営できることを願っています。

以下、東邦大学の卒業生に向けてです。この冊子は、院卒者の多くに送っています。それぞれの学生時代、そして研究が引き継がれていく様子を振り返るよすがとしてください。私自身にとっても初めての関西生活ですが、住んでみると何の抵抗はありません。交通の便も良く、首都圏との往来も意外と気楽にできます。私は当面、東邦大学にも籍があり（客員教授）、今後も共同研究を続けるつもりなので、東邦大学と縁が切れるわけではありません。勿論ですが、卒業生との縁を今後も大事にしたいと思います。研究に関しては、卒業生の築いてきた基盤をもとに、新しくイオン液体、ミュオン分光、ナノ粒子へと研究領域を拓けています。なお、私立大と国立大の差は大きく、似て非なる点が多々あります。大学の規模もまるで違い、学生気質も異なります。成果を求められるので厳しい雰囲気ですが、私大にずっといたならば縁がなかっただろう世界を見られて幸せとも思います。

私の所属は変わりましたが、神戸に移っても、研究室の様子は変わりません。神戸は大変景観の良いところで、研究室からは神戸の夜景が眼下に広がり、六甲の山並みも見えて絶景です。関西へのついでがあれば、是非神戸の研究室に寄ってください。

(2008 年 3 月 持田 記)